

『病中放浪』目次

序 大町桂月・笹川臨風・白河鯉洋 跋 斎藤巾花
装丁 小杉未醒 挿画 小川芋銭

波のしぶき
孤島の秋
修善寺より
豆南の客舎より 芸陽に復す
日光より
豊雲片雲
雑司ヶ谷にて
長田村にて
おもひ出
有象無象

『有聲無聲』目次

無聲
春の部
夏の部
秋の部
冬の部
雑の部
有聲
その日その時
潜夫妄語
深語浅語
市井哲学



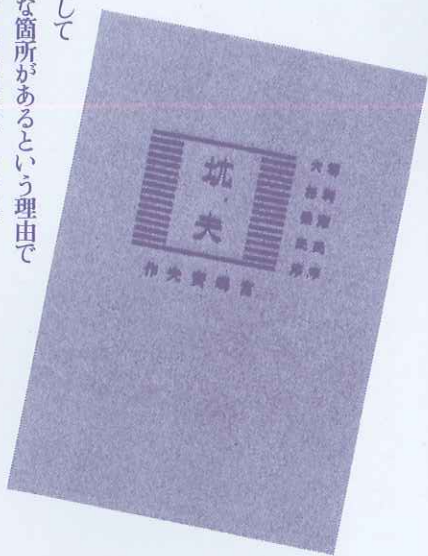
関連図書(復刻版)のご案内

宮嶋資夫 著

坑夫

一九一六年刊 四六判・並製・函入り 二〇〇頁
二〇〇〇円十税へ一九九二年復刻

解説 西田勝



本書は、日本におけるプロレタリア文学の先駆的作品として
基本的な文献であるばかりでなく、発行と同時に「残忍」な箇所があるという理由で
発売禁止となり、紙型も押収されたため、長らく入手しにくい稀覯本であった。
序文 堺利彦 大杉栄

●表示価格は、全て税別。

不二出版

〒113-0033
東京都文京区向丘 1-11-2
電話 03-3811-4433
ファクシミリ 03-3811-4464
振替 00160-294084

田岡嶺雲 著

病中放浪



一九一〇年刊 四六判・並製・函入り 一五〇頁
三五〇〇円十税 解説 西田勝 へ二〇〇〇年復刻

ISBN4-938303-13-2

田岡嶺雲・小川芋銭 著

有聲無聲



一九〇八年刊 四六判・並製・函入り 一五八頁
二〇〇〇円十税 解説 西田勝 へ二〇〇〇年復刻

ISBN4-938303-14-0

発行 西田勝・平和研究室

不二出版

刊行にあたって

『病中放浪』は、「波のしぶき」「孤島の秋」「修善寺より」「豆南の客舎より芸陽に復す」など、一九〇六年七月から一九〇九年一月までに書かれたエッセイ一〇篇を集めたもので、小杉未醒（放庵）や小川芋銭の挿画とあいまって、手記や書簡の形式で文明批評を展開するという田岡嶺雲晩年のスタイルを鮮やかに印象づける、装丁も美しい書籍です。

『有聲無聲』は、芋銭を広く社会に知らせた最初の画集『草汁漫画』刊行後、三カ月を経て出版された画文集ですが、芋銭研究家にもつい最近まで知られなかったもの。老荘の世界に遊んだ芋銭の二七枚の漫画とそれに添えられた自賛、それらに嶺雲の「その日その時」「潜夫妄語」など、一九〇七年夏から歳末までに書かれた、鋭い文明批評を潜めたエッセイ四篇とを加えて一冊にした楽しい書物です。

今年、嶺雲生誕一三〇年にあたり、奇しくもこの六月一日は、嶺雲が、幸徳秋水の大逆事件容疑で湯河原で逮捕されたのに立ち会い「最後のさようなら」を交わした九〇年目でもあります。

二〇〇〇年六月一日

西田勝・平和研究室

病中放浪

孤島の秋

淡路島とわたる舟のなほしほに思ひ定めず行く心哉

嘗て教権の壓迫に對する信仰の解放あり、君權の壓迫に對する民人の解放あり、男權の壓迫に對する女子の解放は、次に來るべき當然の問題に候。而して此に關し、一夫一婦の制を以て直ちに女子の屈從を拯ひ得可き神聖なる方法なるが如く認信する者有りと雖も、縦使一夫一婦の制勵行せらるるとも、家なる者の關係存し、男子が其家長たる地位を有する以上、女子は依然として男子の附屬物たるの屈從を免れ得ざるべきは勿論に候。男女の家族的主從的關係を破りて人類的平等的關係となすにあらざるよりは、女子の解放は望む

●内容見本

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください

●発売

不二出版

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12
TEL 03-3812-4433 FAX 03-3812-4464

注文カード

帖合・貴店名

冊数 冊

発売

不二出版

著者名

円+税

定価=本体

年 月 日注文

様

住所氏名